

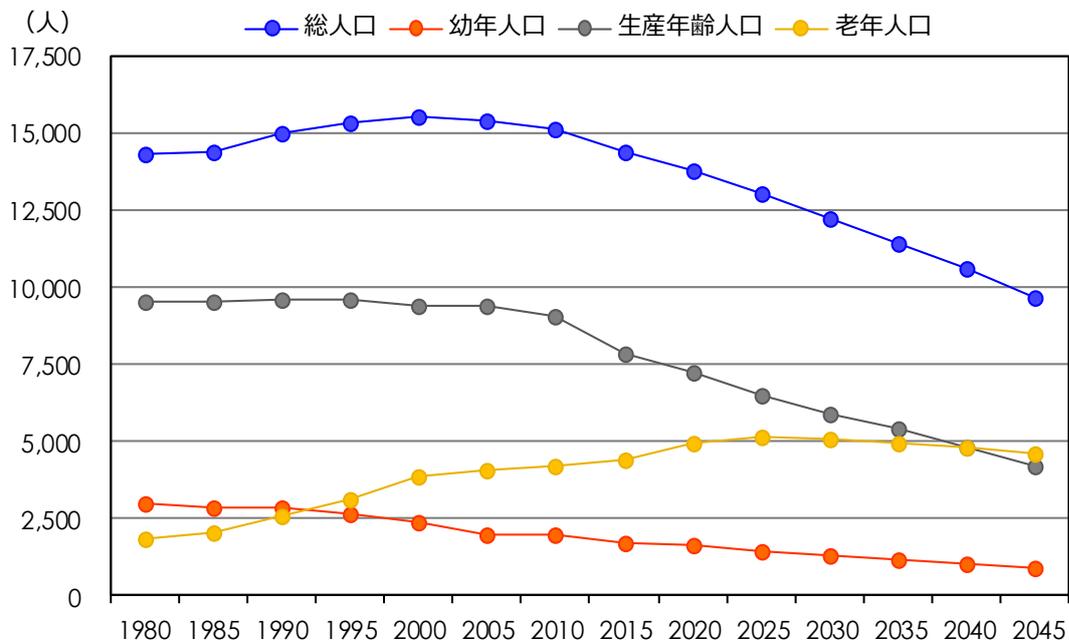
図表の作成

「市町村マスタープラン」及び「立地適正化計画」で使う図表の作成例

人口 年齢構成別（将来推計）人口推移

地域経済分析システム（RESAS）で、全国の市町村の（将来推計）人口が表示できます。さらに、データをダウンロードすることができますが、全国の市町村のデータが含まれています。下図のグラフは、特定の自治体のデータを抽出し、ワードのグラフ機能を使って作成したものです。

例示

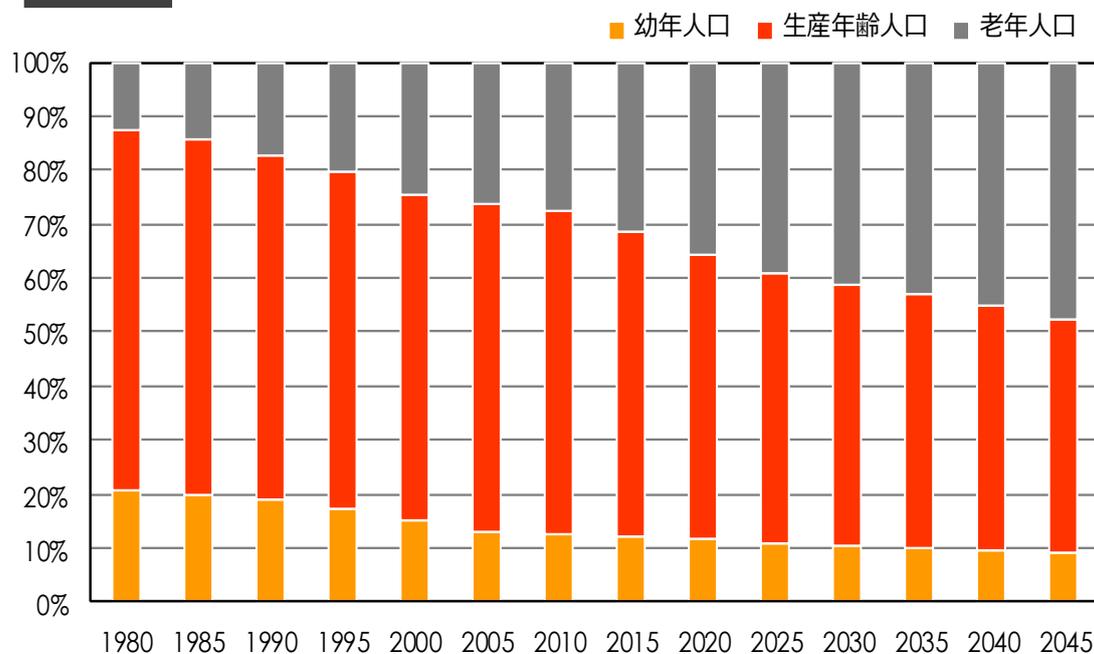


人口推移・将来推計人口

出典：経済産業省・内閣官房「地域経済分析システム（RESAS）」

少子高齢化を表現したグラフです。このグラフは、ワードのグラフ機能を使い、前ページのグラフをコピーした後、「データの選択」で総人口のデータを削除し、又はデータの範囲から除外して、「グラフの種類の変更」で「積み上げ縦棒」に変更して作成しています。

例示



人口構成割合

出典：経済産業省・内閣官房「地域経済分析システム (RESAS)」

人口

都市計画区域等の都市部の人口推移

市街化区域等の都市部に関する人口の推移は、都市計画年報のデータでまとめることができます。都市部と郊外の人口推移の分析に使えます。

例示

(単位 面積:ha 人口:千人 人口密度:人/ha)

		S60 1985	H2 1990	H7 1995	H12 2000	H17 2005	H22 2010	H27 2015
行政区域	面積	6,136	6,136	6,136	6,136	6,136	6,136	6,145
	人口	14.4	15.0	15.4	15.5	15.4	15.1	14.3
	人口密度	2.3	2.4	2.5	2.5	2.5	2.5	2.3
都市計画区域	面積	1,320	1,320	1,320	1,320	1,320	1,320	1,320
	人口	12.6	12.6	13.7	13.7	13.7	14.3	13.6
	人口密度	9.5	9.5	10.4	10.4	10.4	10.8	10.3
市街化区域	面積	194	194	194	218	218	218	218
	人口	8.6	8.6	7.8	7.8	7.8	9.2	8.8
	人口密度	44.3	44.3	40.2	35.8	35.8	42.2	40.4
市街化調整区域	面積	1,126	1,126	1,126	1,126	1,102	1,102	1,102
	人口	5.3	5.8	6.1	6.0	5.6	5.7	5.1
	人口密度	4.7	5.2	5.4	5.3	5.1	5.2	4.6
DID	面積	130	120	160	179	179	170	179
	人口	5.4	5.0	6.3	7.1	7.1	6.9	6.9
	人口密度	41.5	41.7	39.4	39.7	39.7	40.6	38.5
都市計画区域外	面積	4,816	4,816	4,816	4,816	4,816	4,816	4,825
	人口	1.8	2.4	1.7	1.8	1.7	0.8	0.7
	人口密度	0.4	0.5	0.4	0.4	0.4	0.2	0.1

都市地域等の面積・人口・人口密度

出典：都市計画年報、国勢調査、国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」

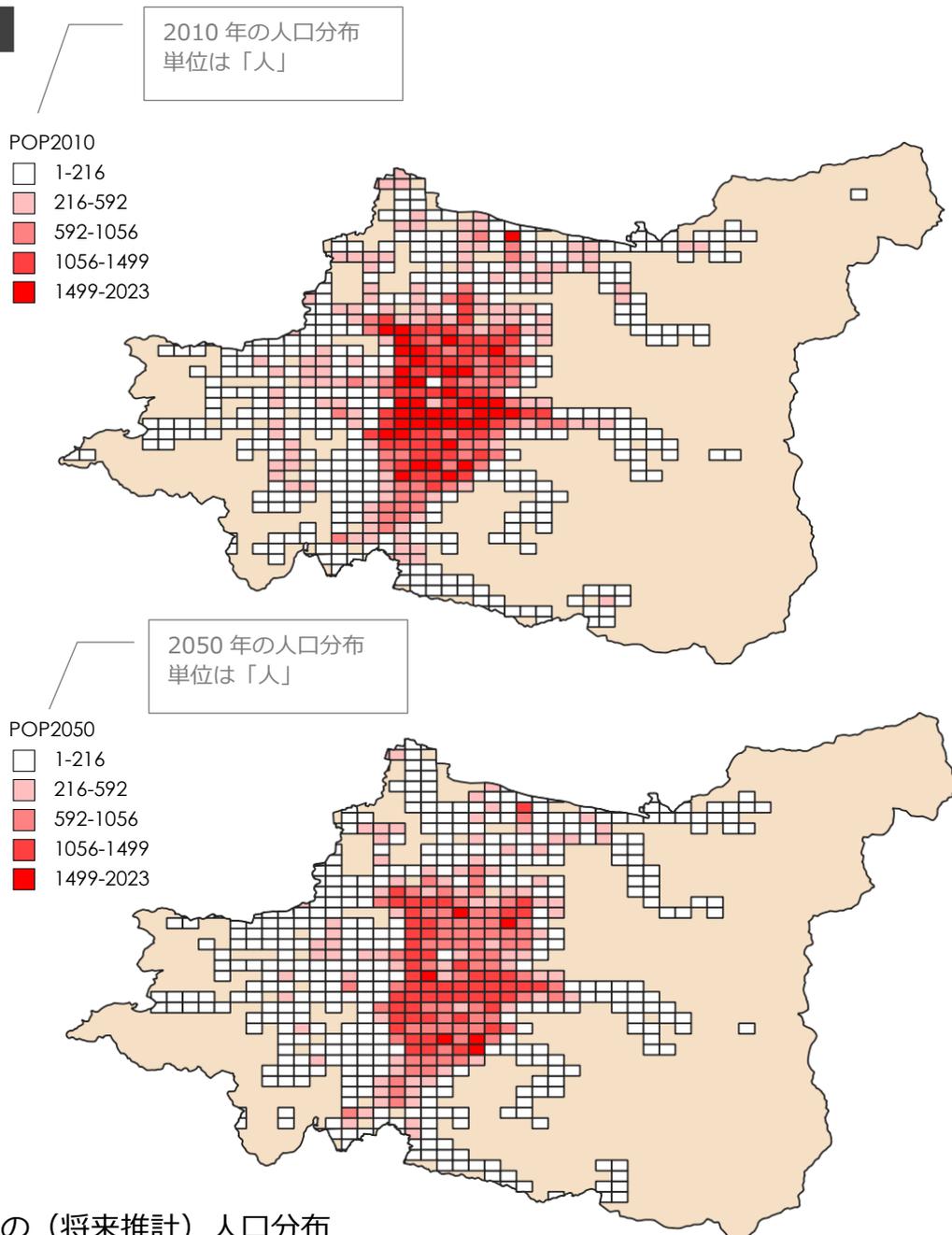
(注) 都市計画区域、市街化区域に関するデータは、国勢調査データ。DIDに関するデータは、国調又は現在データ。市街化調整区域は、現在データ(現在データの年月日 H27:H29.3.31、H22:H23.3.31、H17:H19.3.31 H12:H13.3.31、H7:H9.3.31、H2:H4.3.31、S60:H2.3.31)。行政区域面積は、国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」(昭和60年の面積は、昭和63年の面積を記載)。都市計画区域外データは、表中の行政区域データと都市計画区域データとの差

メッシュデータによる人口分布の推移は、立地適正化計画の居住誘導区域などの区域設定する際の根拠データとして使えます。

下図は、国土交通省「国土数値情報・行政区域データ・500mメッシュ別将来推計人口データ」をダウンロードし、QGIS（無償）で作成しています。2010年と2050年の山形市の人口分布を例示しましたが、他の年、他の市町村についても作成できます。

なお、500mメッシュ人口で1000人は、人口密度で40人/haとなります。メッシュ人口の色分けの数値を変化させることにより、持続可能な人口密度が見えてくると思います。

例示



山形市の（将来推計）人口分布

出典：国土交通省「国土数値情報・行政区域データ・500mメッシュ別将来推計人口データ」
QGISで作成

区域

行政区域、都市計画区域の表示

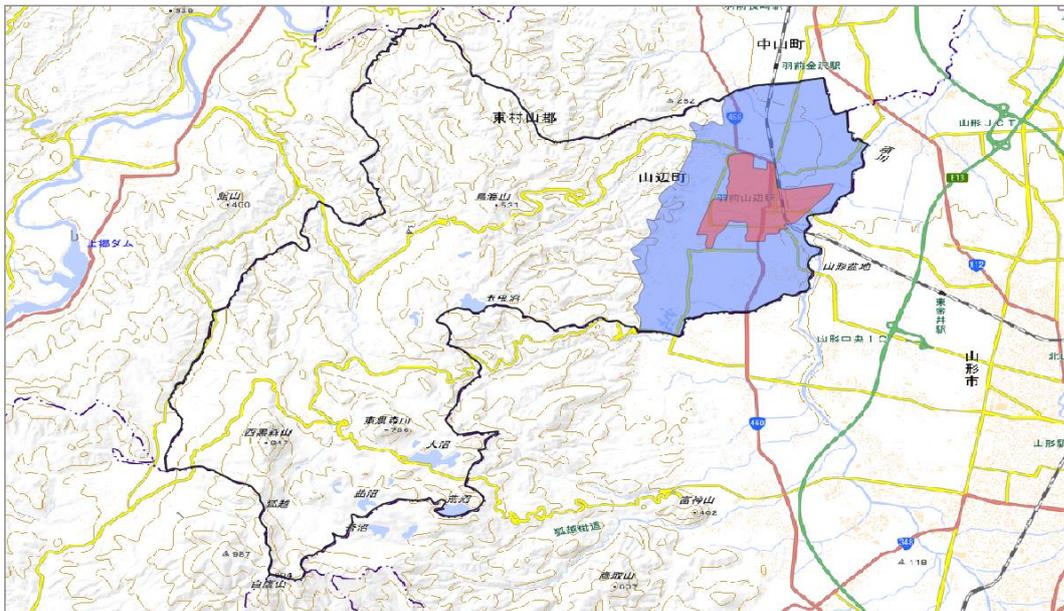
市町村マスタープラン若しくは立地適正化計画の対象区域又は用途地域の区域に係る図は、次のデータとソフトで作成できます。

- ・国土交通省「国土数値情報ダウンロードサービス」の「行政区域データ」「都市地域データ」
- ・QGIS
- ・国土地理院「地理院タイル（標準地図）」（他の地図でも可能）

ベースの地図の2次利用については、提供元の利用規約を守ってください。

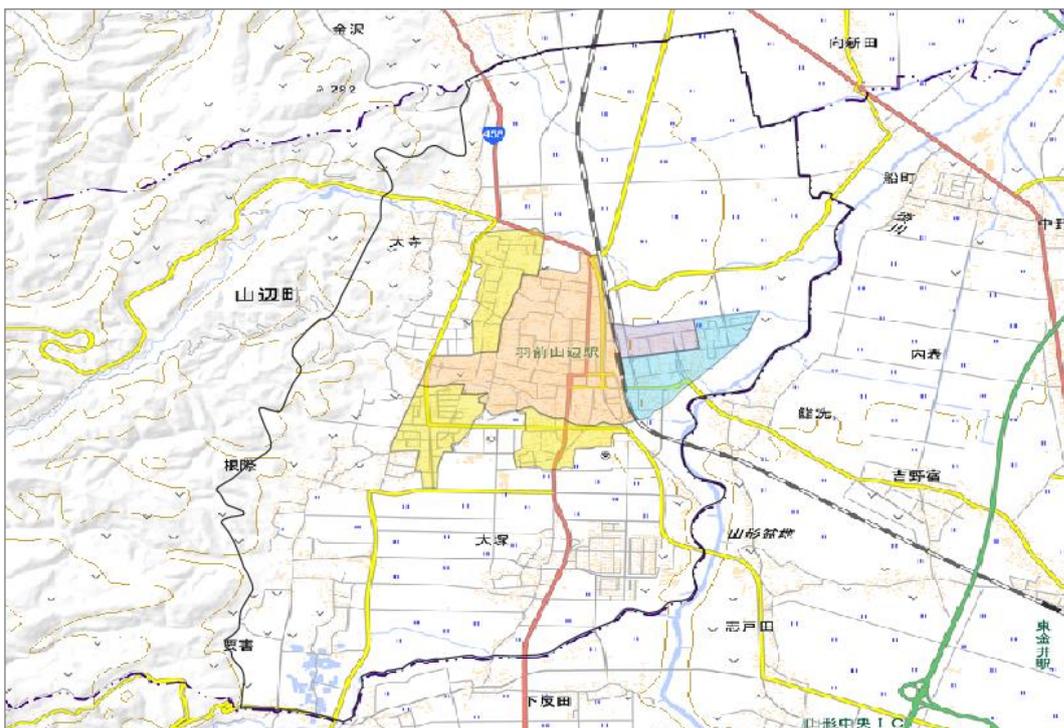
例示

（行政区域+都市計画区域+市街化区域+国土地理院「地理院タイル（標準地図）」）



例示

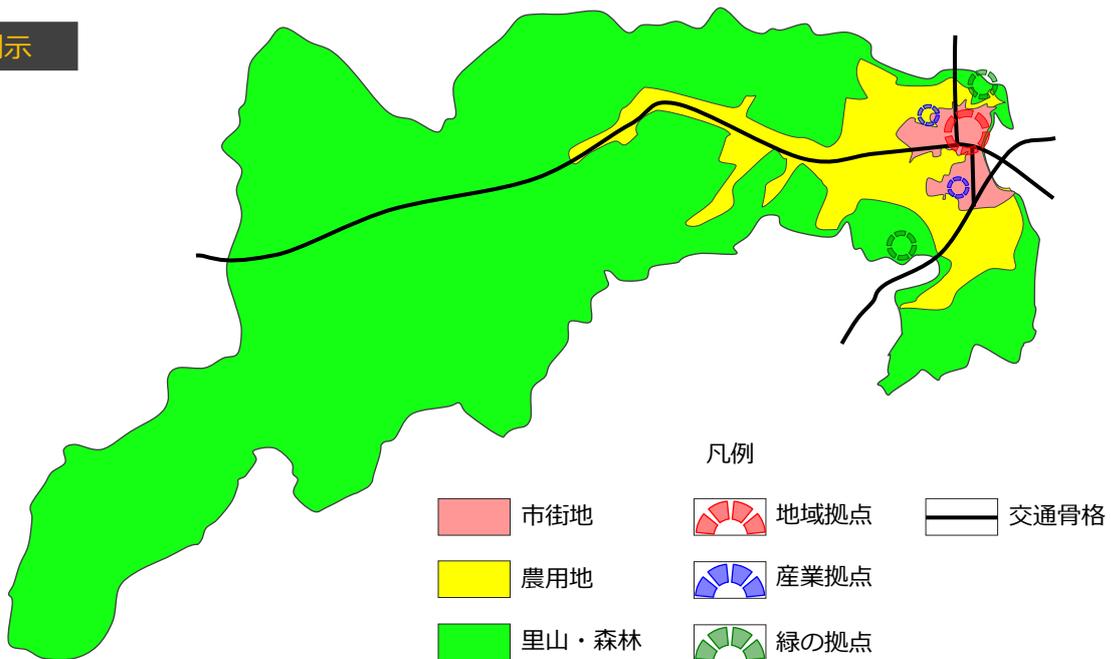
（都市計画区域+用途地域区分+国土地理院「地理院タイル（標準地図）」）



市街地、田園地域、樹林地の3重構造を強調するため、この図では都市計画区域を示していません。用途地域の範囲と大まかな農地とその他の3分類にしています。

この図は、Wordの図形機能で作図していますが、Illustratorなどの描画ソフトを使うと楽に作図できます。行政区域はQGISだと簡単に作図できます。

例示



都市構造図

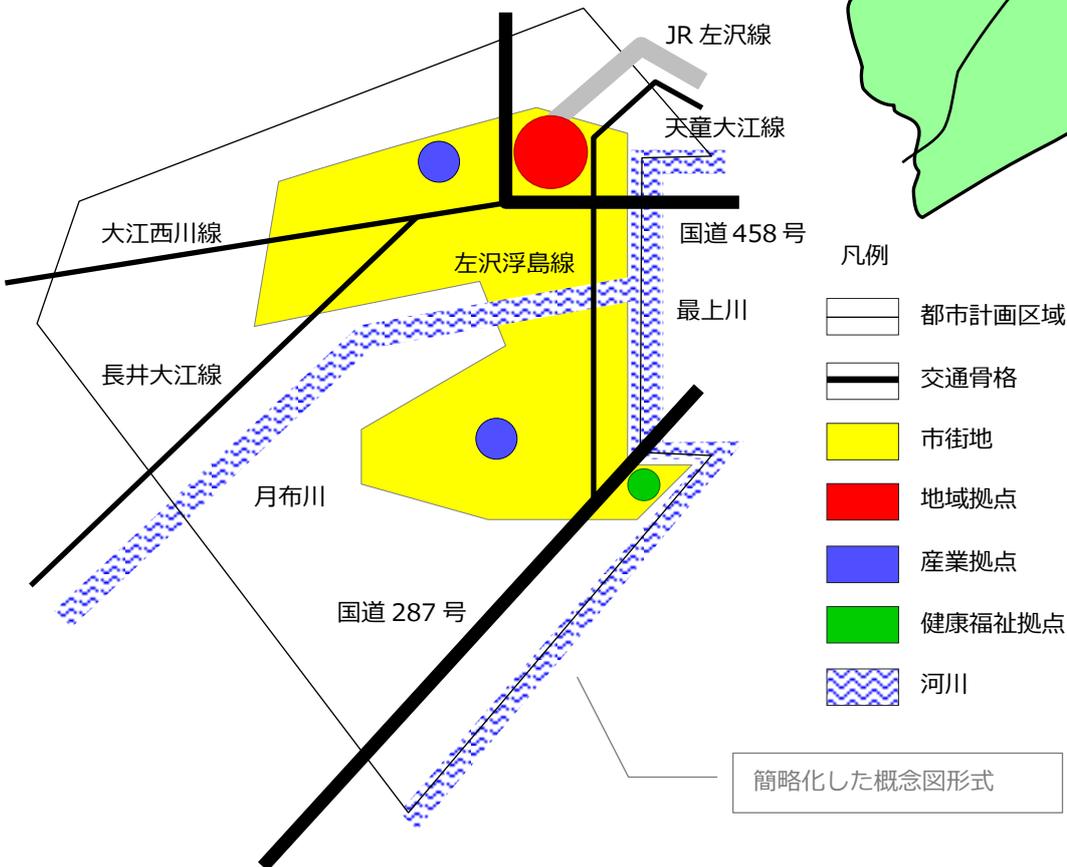
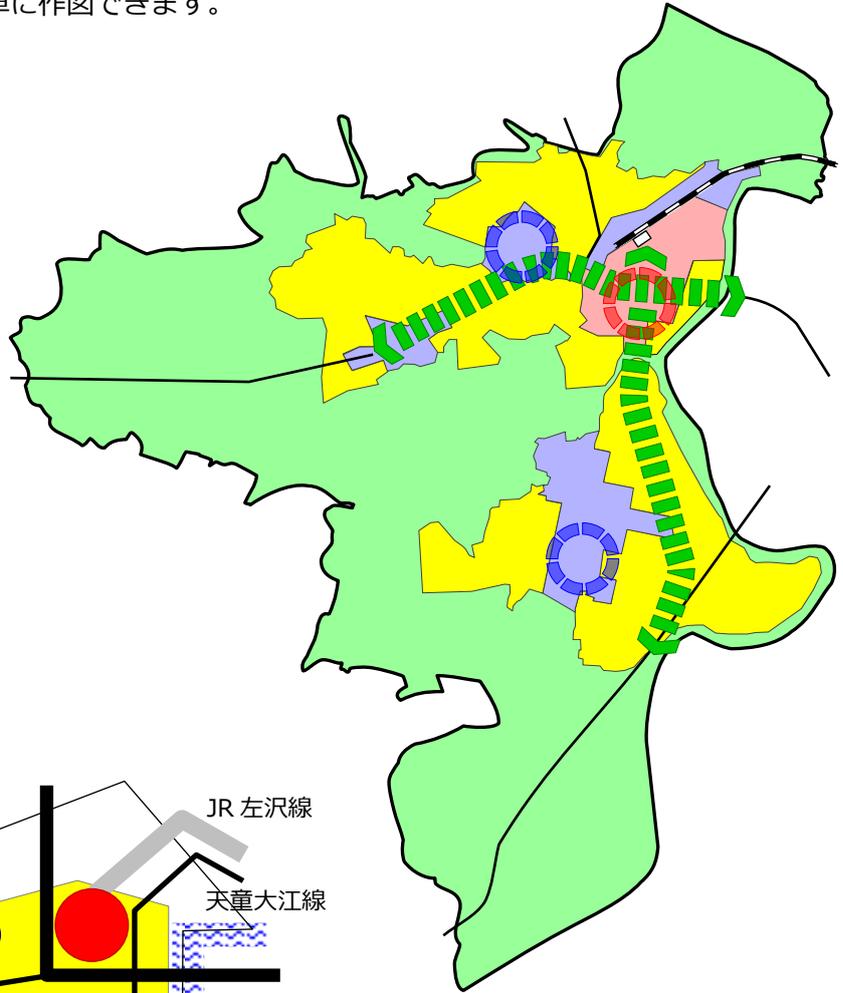
土地利用（用途区分）、拠点、軸で構造を表現

図面表現をどの程度詳細なものにするかについては、プランの方向性を重視する場合は概念図、柔軟な見直しを前提とする場合は詳細図にする選択が考えられますが、住民の合意形成を考えるとできるだけ具体的に表現するのがよいと思われます。

この図は、Word の図形機能で作図していますが、Illustrator などの描画ソフトを使うと楽に作図できます。行政区域は QGIS だと簡単に作図できます。

例示

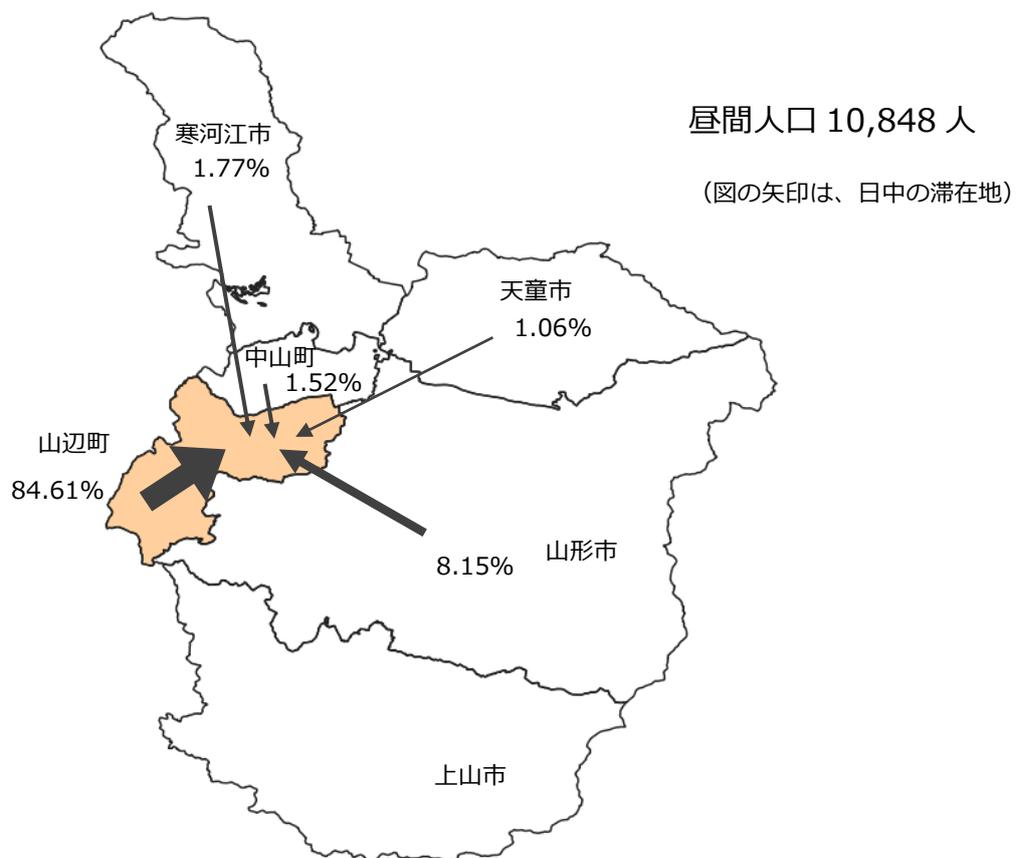
- 凡例
-  都市計画区域
 -  交通骨格
 -  商業系用途
 -  住居系用途
 -  工業系用途
 -  農地・森林
 -  地域拠点
 -  産業拠点
 -  都市骨格軸



通勤や通学による日常的な自治体間移動などのまちづくりに関するデータが、経済産業省・内閣官房の「地域経済分析システム（RESAS）」で閲覧できます。数値と円グラフで提供されていますので、その数値を使って、目的に合わせて、たとえば下図のように作図することにより、まちづくりの施策の根拠データとして使うことができます。

図示した行政区域は、国土数値情報と QGIS で作成したものです。その上にワードの図形機能で自治体名・移動割合（%）・矢印を描き込んで作図しています。

例示

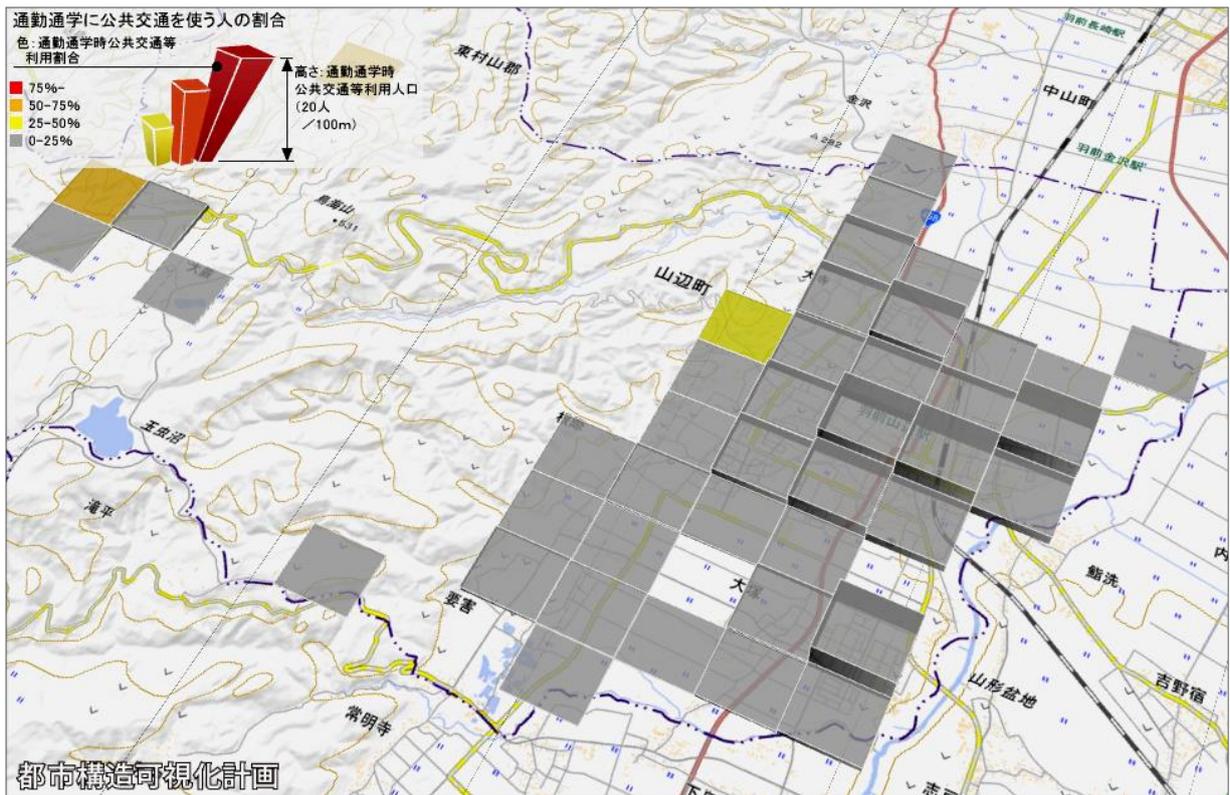


出典：経済産業省・内閣官房「地域経済分析システム（RESAS）（2015年国勢調査）」

昼間人口の地域別構成割合（上位5位のみ表示）

福岡県、日本都市計画学会構造評価特別委員会、国立研究開発法人建築研究所は、「都市構造可視化計画」では、下図のようにさまざまなまちづくり関係のグラフを提供しています。メニュー形式になっているため、独自にデータを加工することはできませんが、メニューは豊富にありますし、全国どこの市町村にも対応しているため、比較することも可能になっています。

例示



通勤通学に公共交通を使う人の割合

出典：都市構造可視化計画、国土地理院「地理院タイル（標準地図）」

都市構造可視化計画は、Google Earthで表示されますが、国土地理院標準地図をベース地図にすることもできます。国土地理院標準地図を使用する際は、ZENRINのコンテンツである道路等も削除するとよいでしょう。